

ウキゴリ類 (ハゼ科)



茨城県には、ウキゴリ属魚類のなかでもいわゆるウキゴリの仲間としては、ウキゴリ、シマウキゴリ、スミウキゴリの3種が分布している。これら3種の分布は地域性がみられるだけでなく、同じ河川の中でも生息域が異なる傾向にある。

- ・ウキゴリ…霞ヶ浦水系や利根川水系，那珂川，久慈川水系，県北地域の各河川。同一河川では下流域に多い傾向にある。
- ・シマウキゴリ…県北地方の一部の河川。
- ・スミウキゴリ…県北地方の一部の河川。

学名：

ウキゴリ：*Gymnogobius urotaenia*

スミウキゴリ：*G. sp. 1*

シマウキゴリ：*G. sp. 2*

大きさ：

ウキゴリ：全長 12 cm

スミウキゴリ：全長 9 cm

シマウキゴリ：全長 9 cm

特徴：3種とも稚魚期は体が側扁しているが、成長すると縦扁する。とくに頭部が平たくなる。また、これら3種は次の特徴の組み合わせから比較的容易に識別できる。

●第1背びれ：ウキゴリとシマウキゴリには黒点があるが、スミウキゴリにはない。ウキゴリではこの黒斑は体長約 50 mm からみられるようになる。

●尾びれ基底：ウキゴリとスミウキゴリには円形の模様があるが、シマウキゴリは円形ではなく分岐した模様がある。



体長 17.6 mm のウキゴリ稚魚。

国内の分布：

ウキゴリ：北海道，本州，九州

スミウキゴリ：北海道から九州まで

シマウキゴリ：北海道から本州の茨城県・福井県まで

県内の分布：

ウキゴリ：河川の下流域を中心に生息している。久慈川水系では本流で稀に確認されるが，一次支流の里川以外ではほとんど確認されていない。久慈川を除く県北地域の河川には多く生息している。霞ヶ浦水系に生息しているのは本種。

スミウキゴリ：河川の下流域を中心に生息している。久慈川ではほとんど確認されないが，久慈川を除く県北地域の河川には多く生息している。

シマウキゴリ：県北地域の十王川で確認されている。ただし，平成年代の調査では確認されていない。

県内での生態：霞ヶ浦におけるウキゴリの生態を記す。産卵期は3～5月で，盛期は3月下旬から4月中旬と推測されている。岸近くの水底にある石や貝殻の下などに産卵する。オスは卵がふ化するまで保護する。霞ヶ浦では成魚は冬から春にみられ，夏はほとんどみられない。成魚の餌生物にはイサザアミやヌマチチブ，テナガエビなどが知られる。ふ化した仔魚は6月下旬には全長45 mm くらいにまで成長する。

備考：霞ヶ浦北浦では，ウキゴリ稚魚のことを“やなぎは，やなぎっぱ”と呼んで張り網などで漁獲し，佃煮に加工している。漁獲時期は5～7月頃である。

主な文献：

竹内直政（1971）霞ヶ浦および北浦におけるウキゴリの生態．資源科学研究所彙報，75: 16-28.

稲葉 修（1998）茨城県北部沿岸水系の魚類．茨城生物，18: 1-15.

霞ヶ浦情報センター研究委員会編（1994）霞ヶ浦の魚たち．霞ヶ浦情報センター，阿見町．167 pp.